

中山間地での子球(セット球)利用の冬どりタマネギ栽培における適品種、定植時期					
[要約] 標高 400m 程度の中山間地での子球を利用した冬どりタマネギの栽培では、品種は「シャルム」、植え付け時期は 8 月 20 日前後が適する。					
佐賀県農業試研究センター三瀬分場 山間畑作研究担当			連絡先	0952-56-2040 nougyoushikensenta@pref.saga.lg.jp	
部会名	野菜	専門	栽培	対象	タマネギ

[背景・ねらい]

中山間地では、農業担い手の高齢化が進み、施設栽培農家の激減や作付休止畑の増加など、農業を取り巻く環境は年々厳しくなっている。そのため、高齢者でも取り組みやすく、省力的で導入コストが低い新規品目の選定が望まれている。そこで、高収益露地野菜品目として期待でき、平坦部よりも気温が低い中山間地の気象条件を活かすことができる冬どりタマネギの栽培技術を確立する。

[成果の内容]

1. 品種は、「シャルム」が最も適する。また、冬どりタマネギは 9 月下旬から 10 月上旬にかけて日長に反応して球肥大を開始するが、「シャルム」を使用してもその時期の日照条件が悪い場合は収量減につながる(図 1、表 1)。
2. 中山間地では平坦部よりおよそ 1 週間早い 8 月 20 日前後に定植でき、11 月中旬までに収穫できる。また、この時期に定植すれば、9 月下旬から 10 月上旬の日照時間が少ない場合でも、収量の減少が少ない(図 1、表 2、表 3)。

[成果の活用面・留意点]

1. 本成果は、標高 400m 程度の中山間地での子球を利用した冬どりタマネギ栽培で活用できる。
2. 本試験では、ビニルハウス内で 3 月上旬に播種し、5 月下旬に掘り上げたあと風通しがよく直射日光が当たらない場所に保管し、7 月上旬より定植直前まで低温貯蔵(5℃)した子球を用いた。
3. 本試験では、速効性肥料(商品名 B B 4 6 4)を窒素成分量で 10kg/10a 施用した。なお、前作は春どりレタスで、施肥前の土壌の EC 値は 0.06mS/cm であった。
4. 土壌水分が少ない場合は、活着促進のため子球の植え付け後に十分かん水を行う。
5. 日照条件が悪い場合、不完全な休眠となり青立ち球になりやすいため、可能な限り日照条件の良好な畑作圃場を選定する。

[具体的なデータ]

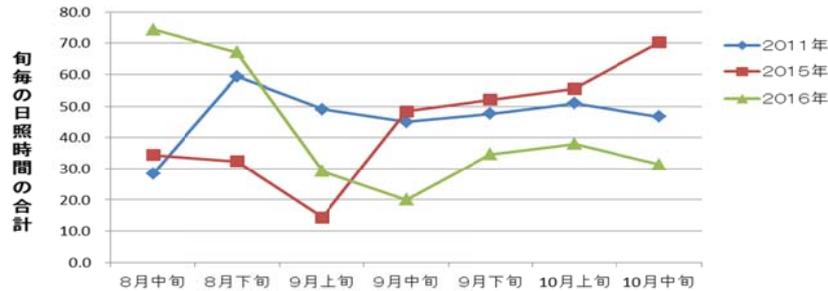


図1 試験年次の旬毎の総日照時間

表1 品種の違いと平均収穫日、上物率、上物収量 (2015、2016年)

試験年次	供試品種	平均収穫日	球重	上物株率 ¹⁾	青立ち株率	生育不良株率	上物収量 ²⁾
			g	%	%	%	kg/10a
2015年	シャルム	11月12日	208	87.8	2.4	4.9	4,884
	アーリートップ	11月27日	226	35.0	42.5	2.5	2,112
	センチュリー2号	11月23日	210	49.9	20.4	5.6	2,797
	スーパーハイゴールド	11月27日	238	57.1	31.4	0	3,617
2016年	シャルム	11月12日	141	70.8	6.9	4.2	2,604
	貴錦	11月10日	142	56.9	15.3	12.5	2,321
	センチュリー2号	11月16日	144	31.9	22.2	27.8	1,444
	トップゴールド305	11月15日	142	66.7	9.7	16.7	2,130
	博多こがね	11月9日	133	62.5	15.3	15.3	2,113
	春いちばん	11月5日	117	77.8	9.7	8.3	2,261

注1) 全植え付け株のうち、2S規格未満の株や青立ち株、病虫害の株、欠株を除いた株の割合

注2) 上物球の球重の合計

注3) 播種日: (1)2015年3月4日 (2)2016年3月7日

注4) 定植日: (1)2015年8月18日 (2)2016年8月18日

注5) 子球掘取り日: 5月20日~6月2日

注6) 耕種概要: (1)栽植様式 畦幅150cm 株間10cm 条間25cm 条数4条

(2)施肥量 (基肥)牛糞堆肥3,000kg/10a BB464 71kg (N:P2O5:K2O=10:11:10kg/10a), (追肥)なし

(3)マルチ資材 有孔シルバーマルチ(農ボリ、厚さ0.025mm)

表2 定植時期の違いと平均収穫日、上物率、上物収量 (2011,2016年)

試験年次	試験区	平均収穫日(収穫期間)	球重	上物株率	青立ち株率	生育不良株率	上物収量
			g	%	%	%	kg/10a
2011年	8月18日定植区	11月2日	210	95.8	0.0	4.2	5,360
	8月25日定植区	12月12日	272	95.9	0.0	4.2	6,956
	9月2日定植区	12月12日	247	91.7	0.0	8.3	6,581
	9月9日定植区	12月22日	66	33.3	0.0	66.7	1,154
2016年	8月10日定植区	11月12日(10月31日~12月8日)	129	81.9	0.0	1.4	2,407
	8月18日定植区	11月9日(10月13日~11月13日)	149	90.3	4.2	0.0	3,595
	8月30日定植区	11月15日	136	20.8	6.9	68.1	614

注1) 供試品種:「シャルム」 注2) 耕種概要:表1に準ずる。

注3) 収穫方法:2011年は80%倒伏時に一斉収穫、2016年は3日毎に倒伏株を間引き収穫した。

表3 定植時期の違いと規格別割合 (2011、2016年)

試験年次	試験区	規格別割合				
		2L	L	M	S	2S
		%	%	%	%	%
2011年	8月18日定植区	0.0	43.5	47.8	8.7	0.0
	8月25日定植区	4.3	43.5	34.8	13.0	4.3
	9月2日定植区	18.2	50.0	9.1	18.2	4.5
	9月9日定植区	0.0	0.0	25.0	62.5	12.5
2016年	8月10日定植区	0.0	2.2	17.4	45.7	34.8
	8月18日定植区	0.0	10.3	31.0	46.6	12.1
	8月30日定植区	0.0	0.0	14.3	57.1	28.6

注) 規格分けは、JAさがの出荷規格に準じて行った。

2L: 球径90mm以上、L: 球径80mm以上90mm未満、M : 球径70mm以上80mm未満

S: 球径60mm以上70mm未満、2S: 球径50mm以上60mm未満

[その他]

研究課題名 : 中山間地の新たな特産物になりうる園芸品目の創出

予算区分 : 県単

研究期間 : 2015年~2018年

研究担当者 : 江頭淳二、陣内宏亮